

「私のために、私とともに神に祈ってください」

ローマ15：30-33

堀田修一 24・11・10

本日は、教会創立59周年及び献堂（現在の会堂25周年）記念礼拝です。福音宣教も教会形成も会堂建設も全能の神への祈りの結集なくして何事も前進しません。59年間、当教会の祈りに応えて下さり、祝福と試練の中で、神が教会形成を導いて下さった恵みを心から感謝します。豊かな賜物を神から与えられていたパウロが自分だけの力では何もできないことを深く自覚し、「祈ってください」と要請しているみことばから、教会が祈り合うことの大切さを深く学びましょう。祈りは力です！「正しい人の祈りは働くと、大きな力があります」（ヤコブ5：16）。

I 「兄弟たち。私たちの主イエス・キリストによって、また、御霊の愛によってお願いします。私のために、私とともに力を尽して、神に祈ってください。」：30。多くの困難が予想されていただけに、パウロの懇願も切実です。「御霊の愛」とは、御霊が私たちの心に結んでくださる最高の実です。誰かのために心から祈ることは、最高の愛です。「ともに力を尽して」は、新約聖書ではここだけに使われている言葉。祈りにおいて、私と一緒に戦って欲しいという、彼の真剣な願いが強く表現されています。

31、32節でパウロは次の三つのことを祈って欲しいと懇願します。

1. 「私がユダヤにいる不信仰な人々から救いだされ」：31。「ユダヤにいる不信仰な人々」とは、パウロを憎み、彼を殺害するために機会をねらっているユダヤ主義者たち（主を信じる信仰ではなく、旧約聖書の律法と儀式を守ることによって救われると主張する人々）のこと。エルサレムはユダヤ教の中心地であり、そのエルサレムに行くことは命の危険にさらされる事だった（使徒20：22-25）。

2. 「エルサレムに対する私（パウロ）の奉仕が聖徒たちに受け入れられるように」：31。パウロの奉仕とは、エルサレム教会に愛の募金を手渡すこと。ユダヤ的色彩の強いエルサレム教会の指導者たちが、異邦人キリスト者たちの募金を喜んで受け取ってくれるかどうか、パウロはひどく不安だった。また、異邦人への使徒であるパウロを受け入れ、彼と交わりをともにしてくれるかどうか心配だった。それゆえに、パウロは「私とともに力を尽して祈ってください」と懇願するのです。

3. 「また、神のみこころにより、喜びをもってあなたがたのところに行き、あなたがたとともに、憩いを得ることができるように、祈ってください」：32。第三は、エルサレム教会に対する奉仕を終えて、無事に喜びをもってローマに行くことができるようになること。「あなたがたとともに、憩いを得ることができるように、祈ってください」。奉仕するだけでは、疲れが溜まります。ここに大切な奉仕の秘訣が記されています。「憩いを得ながら、喜んで奉仕をすること」です。憩いは、神との静かな交わりから与えられます。「主は私を緑の牧場に伏させ、いこいのみぎわに伴われます」（詩篇23：2）。体調が悪い時は、罪責感を持たないで、休み、主の御手に

憩いましょう。また、憩いは、キリスト者との愛の交わりによって与えられる憩い、慰め合い、安らぎ、そこから新しい伝道、奉仕の力が生まれます。

「どうか、平和の神が、あなたがたすべてとともにいてくださいますように。アーメン」：33。
パウロにとって、真実の平和（意見、考え方が違って、人格を受け入れ合い、主にあって愛し合う平和）こそ最も望んでいたものです。ローマのキリスト者たちの間に真の一致（意見、考え方、支持する政党等の違いがあっても、主に愛され互いに愛し合う一致）が育てられるためにも、真実の平和が必要です。それは、キリストによって与えられる霊的一致と愛の交わりによる平和です。その様な平和を与えることができるのは、神だけです。その神が「あなたがたとともにいてくださいますように」。

Ⅱ 教職者と信徒が祈り合い支え合う教会を神は祝福される

1. パウロは、いつも兄弟姉妹の為に祈りました。と同時に、彼ほど、「私の為に祈ってください」と心から依頼した人はいないほど、祈られるときに神が与えられる力と、祈り支えていただけないなら神からの「宣教と成長」の使命を果たすことが出来ない自分の弱さ（自分の欠けと肉体のとげ、病）と悪魔の攻撃を深く自覚していました。パウロは、各教会に祈りの要請を真剣にしています。私も、ここから学び、教会員の方々に、「私のためにも祈ってください」と真剣に依頼しています。今日まで私が、支えられているのは、多くの方々の祈りの支えのおかげです。パウロの祈りの要請のみことばを見ましょう。

①ローマの教会へ＝本日のみことば。15：30－33。

②エペソの教会へ＝「私のためにも、私が口を開くときに語るべきことばが与えられて、福音の奥義を大胆に知らせることができるよう、祈ってください。私は福音のために、鎖につながれても使節の務めを果たしています。宣べ伝える際、語るべきことを大胆に語れるように、祈ってください」6：19，20

③コロサイの教会へ＝「私たちのためにも祈ってください」コロサイ4：3

④テサロニケの教会へ＝「私たちのためにも祈ってください」Ⅰテサロニケ5：25。

「私たちのために祈ってください」Ⅱテサロニケ3：1。

2. 教職者には、悪魔による霊的な戦いと自分にも弱さがあるため、信徒の方々の祈りの支えを必要としています。この約2千年間、福音の働き人が、多くの迫害、労苦、試練を乗り越えて福音を伝え続けたので、私たちのもとにも福音、主の救いが届いた恵みを心から感謝しましょう。パウロの正直な告白を見ましょう→「労苦したことはずっと多く、牢に入れられたこと…むち打たれたこと…死に直面したこともたびたびありました。…同胞から受ける難、異邦人から受ける難、町での難、荒野での難、偽兄弟による難に会い、苦しみ、たびたび眠られずに夜を過ごし、飢え、渇き、…さらに、日々私に重荷となっている、すべての教会への心づかいがあります。だれかが弱くなっているときに、私は弱くならないでしょうか。だれかがつまずいていて、私は心が激しく痛まないでしょうか」Ⅱコリント11：23－33。パウロもすべての教職者も、スーパーマンではありません。弱さ、ある人には障がいや病のある土の器です。それぞれ性格や考え方の違う方々をまとめながら、一致して（主にある一致とは、考え方が違って、人格と意見を分けることを学び、意見が違って、人格を受け入れ合う一致。ローマ書の大切な教え）教会が歩むように導くことは人の力ではできません。相談を受け寄り添う愛、聞く事と語る事の識別力、謙遜、忍耐と前進する勇気、支配しない支配されない愛を祈り求め神に拠り頼む必要があります。悪魔

の誘惑も強く、大きな罪に陥ったり、心の病になったりして、牧会を退く方も多くあります。全能の神の助けが必要です。信徒の方々の祈りの支えを必要としています。私は、45年間、4つの教会の皆さんと多くの方々が祈り支えて下さる愛を心から感謝しています。それなくして、今の自分は存在しません。※証し。

Ⅲ お互いの為に祈り合う教会を神は祝福される。これからも祈り合う教会として歩みましょう！「あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのために、目を覚ましていて、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くして祈りなさい」エペソ6：18。「祈りのノート」他を用いて日々、祈りましょう。祈り会や奉仕の日にも祈り合いましょう。「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願いを神に知っていただきなさい」ペリピ4：6。まず主の恵みを数え感謝し、正直に願い事を祈りましょう。「たゆみなく祈りなさい(祈りつつ神と交わる)。感謝をもって祈りつつ、目を覚ましていなさい」コロサイ4：2。来年は60周年です。主にある教会、祈りの共同体として、祈り合い支え合い歩みましょう！祈りの支えは最大の奉仕！